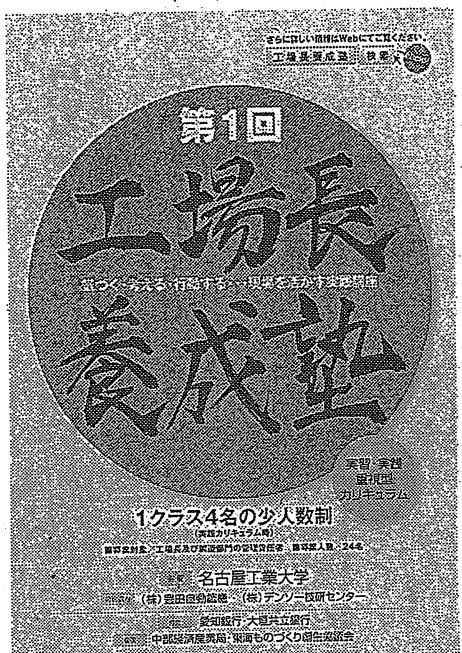


# 「気づきのハウツー」学ぶ

## 工場長養成塾 きょう入塾式



「第1回工場長養成塾」には募集枠を上回る34社から応募があった(募集のパンフレット)

の中核を担う人材を育成・強化するための実践的な人材育成プログラムを、産学官の連携により構築しようというものだ。

その中のひとつとして、平成十七年度に「工場長養成塾」の第一期が開発された。十八年度には中小企業のニーズや運営上の問題点などを検証す

のなか、二十一日の入塾式には、各士大が採択された「アジア人材資金構想―自動車産業」の推進に向け、四人の留学生も出席する。

名古屋工業大学は豊田自動織機、デンソー技研センターとともに、二十一日、名古屋市昭和区御器所町の同大学で「第一回工場長養成塾」の入塾式を開催する。経営トップが工場改革に強い意欲を持つ中堅・中小企業を対象に、優れた工場長クラスの人材を育成するための事業のスタートとなり、二十一日から来年三月八日まで、延べ二百四十六時間、多彩なカリキュラムが展開される。

## 製造現場など教室に

第1回は 24人受講 多彩なカリキュラム

### 名工大など

同塾は、製造現場で「気づきのハウツー」などのカリキュラムを通じて、問題の発見を考え、行動できる人材の育成を目指す。名古屋工業大学、豊田自動織機、デンソー技研センター、経済産業省の「産学連携製造中核人材育成事業」が連携して開発された。受講する二十四人は、四人の少人数制で六グループを編成。グループごとに現場指導員であるチューターが課題を受講生自らで解決できるような、受講生の立場に立つて指導する。

「気づきのハウツー」を学ぶ。発足の契機となったのは、経済産業省の「産学連携製造中核人材育成事業」。わが国製造現場を支える製造現場、優れた工場の視察

同塾は、製造現場で「気づきのハウツー」などのカリキュラムを通じて、問題の発見を考え、行動できる人材の育成を目指す。名古屋工業大学、豊田自動織機、デンソー技研センター、経済産業省の「産学連携製造中核人材育成事業」が連携して開発された。受講する二十四人は、四人の少人数制で六グループを編成。グループごとに現場指導員であるチューターが課題を受講生自らで解決できるような、受講生の立場に立つて指導する。